

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

たっぷく だより

No. 16

編集発行 平成 25 年 3 月 1 日

田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



「日々感謝」

事務長 河合 郁朋



田原福祉専門学校
の事務長を拝命して
一年が過ぎようとして
います。「新入生
歓迎会」、「凧まつ
り」、「田原祭り」、「たっぷく祭」な
どの行事に参加し、学生の若さあふ
れるパワーに圧倒され、卒業後は、
立派な介護福祉士となって活躍して
くれるものと期待しています。

平成 24 年は、京都大学の中山教授

のノーベル医学・生理学受賞、ロ

ンドンオリンピックでの日本選手の

メダルラッシュなど、明るい話題の

多い年だったと思います。中山教授

は受賞の感想を「一言で表現すると

感謝という言葉しかない。国、京都

大、若い研究者が助けてくれた。

家族にも心から感謝したい。」と

言われました。また、オリンピックで

メダルを獲得した選手も「支えてく

れたすべての人に感謝したい。」と

感想を言われていました。

物事を成し遂げるためには、本人

の努力はもちろんのこと、いろいろ

な人から助けを受けなければ成し遂

げることはできません。

家族、地域の皆さん、学校の皆さん

、職場の皆さん、いろいろな所で

出会い、お世話になった皆さんに感

謝しながら、これからの日々を過ご

していきたいと思っています。

事業所訪問

今回は『あつみの郷』で働く十期生の中神 翼さんにお話を伺いました。

今日はお仕事前の貴重な時間をありがとうございました。十期生ということは社会に出て六年目ですね。職場を何ヶ所か経験されてあつみの郷に就職したと聞きましたが、今まで勤めたところを教えてくださいませんか？

最初は小坂井の青山病院系列の特養に三年半、赤岩病院に半年、寿宝会の一晃、真寿苑に一年八ヶ月です。

今は小規模多機能の施設が多いみたいですが、そういうところでも働きましたか？

真寿苑がそうでした。デイサービスとショートステイとホームヘルパーの複合体で、今までの経験が活かせると思ったので一晃から真寿苑に異動願いを出しました。

ただユニットケアといっても、まだまだ従来型のように一日を時間で区切ってしまうことも多くて、入居者の方一人一人に合わせた介護は難しかったですね。本当は一人ずつ二十四時間シートみたいなのを作っ

てそれに沿っていった方がいいと思うんですけどね…。

介護士の中でも個人を尊重しようと言う人と、時間どおりに進めることを長年やってきた人がいて、その人たちが一緒に働くとうとうして価値観のギャップなんかもあったりもしますね。

そのギャップって埋まらないものですかね？

中神さんはいろいろなところを経験してきているから、だからこそ、その中で身に付いたことってありますか？



転職は給料のこともあったんですけど、今にして思えば技術って本当に忙しい現場に入らないと身に付かないなと思うんです。緊急の対応な

どを間近で見て、感じて、手を出して経験していった、その後ユニットケアなどの施設などで働くとうつたりしたムードの中で緊急なことが突発的に起きて、自分で対処できることもあるので。実際に、そういう現場で経験を積んできた職員で、とても頼もしい介護士になってる人を見てるので余計にそう思います。最初からゆつたりしたところでも、もちろん経験は積めると思いますが、やっぱり経験がないと緊急時には怖くて手が出せないってこともあるんじゃないかと思えます。

少し前に、自分は休憩時間だったのですが、廊下を歩いていたら AED の音が聞こえて、行って見たら利用者の方が窒息を起こしていたんです。ナースは心肺蘇生をするために動き回っていましたが、介護職員は手を出す人がいなくて、気道確保もまだでした。使えそうな物も近くに見当たらなかったもので、とりあえず自分の上着を脱いで利用者の方の首の下にかきました。そういう時にやることをパツと気づける介護士になりたいですね。その経験を積ませてもらったために忙しい現場で何年かやってみて、それからゆつたりした現場で力を発揮する介護士が自分ですごく『光ってるな』と思います。

それは同感です。

私も最初に就職した施設がとても忙しいところで、夜勤帯や自分の休憩時間を削ったりして、溜まった業務をこなしていました。当時は大変で辛くて「なんで？」って思っていたけど、今思えばそれで技術が身に付いたと思います。今は病院で働いているのでターミナルケアも多いのですが、それも経験していくうちに、ちゃんと最期まで見送れるという自信になってきている気がします。もちろん辛いことではありますかね。

看取った数だけ成長するっていうことですね。

自分は、後輩たちに介護って楽しみながらお金がもらえるんだよって言ってるんですよ。実際何か突発的なことがあった時に対処できないといけないんだよって重いこと言っていると、すぐに辞めていってしまうことがあるので、なかなか言えなくて。

以前の職場でも、その日の職員によって、ある日は利用者さんが不穏になつたり、ある日はとても穏やかな一日を過ごすことができたということがあります。『今日も一日頑張りましたよ。何をしても過ごしましよるか？』って穏やかな雰囲気を作ると、割りときれやかに過ごせるこ

とが多かったです。そういうスキルも欲しいですよ。

そうですね。

学生の間にせつせとボランティアに行っておくと少しずつ身に付くものがあったり、施設の雰囲気なんかも分かると思うんだけど、今はカリキュラムが変わったりして、ボランティアに行く時間も私たちの時ほど取れないみたいですよ。それでもボランティアには行って欲しいな。私は思っていますが、中神さんはどう思いますか？

学生のうちにいろいろなタイプの施設を自分の目で見ておけるので、ボランティアには行って良かったと思いますよ。就職するときに、選びやすいと思います。それに、施設と言っても自立度の高いところやほぼ寝たきりの人ばかりのところ、療養型など、いろいろな現場を見てほしいです。

その中でボランティアに行った学生には、やってみて「やってみると」という感覚ではなくて、「やらせてもらっていい」という感覚を就職してからも忘れないで欲しいと思います。命の重みを知ってほしくて、自分は、実習生には「命を懸けて教えてもらっているんだよ。」って伝えるようにしています。だから、こっちは頑

張って吸収しなきゃいけないし、既往歴や生活歴を把握して、言葉遣いもですけど、最低限失礼の無いように接しないといけないって思っています。新人にもプレッシャーにならない程度には伝えるようにしているんですけどね。

なるほど。六年の経験から得たものは大きいですね。

技術も年々変わっていくからそこから自分に合った技術を身に付けていかなければね。

利用者さんでも毎日同じ人はいないですよ。

そうですね。昨日と今日が一緒ではないからね。

でも、それが面白いんですけどね。いつも違うから今日はどんなだろうって思って出勤していた頃もありますから。今日これはダメなんだ、じゃあ次はこの方法で……って自分の中で引き出しが何個かあって、その引き出し全部使ってもダメか。ああ経験が浅いんだなって痛感するときもありますけど。でも、それができるようになったときに成長じゃないですか。だんだん引き出しが増えていくっていう。それで全部こなせるようになったときには達成感もあるし、それが介護の良いところでもあるのに、それを上手く伝えられ

ない。厳しい部分だけ言っちゃうと辞めちゃうし、なあなあにしていると成長できない。難しいです。

そうですね。リーダー的な立場になつてきたときにどういうふうに皆をまとめていって、大変なことだとは思いますが、たつぷくの卒業生がそういう立場になっていって欲しいと思っています。

学生の時って理想の塊になるじゃないですか。それを削っていかざるを得ないことも多くあると思うんですけど、そのときに絶対に譲れない信念みたいなのを壊さなければいい職員になれると思うんですよ。

今思うのは理想を追って別々の現場で働いてる人たちが一か所に集まったらすごい介護ができるんじゃないかと思うんです。

それ思う！

こうしているんな卒業生と会つてると、いずれ学校を中心に集まらさずともできるんだらうなって感じます。そのためには皆にも成長してもらって、そしてそれを、こんなふう頑張ってるよ、って発信していく場が必要だと思って、こういう場を設けてます。

では最後に、在校生やこれから介護を目指す人たちにメッセージをお

願います。

さっき言ったこともそうなんですけど、とりあえずはめげないで欲しい。いろんな現場があるわけだから、そこだけじゃない。実際良い部分もあればそうじゃない部分もあるわけで、でもなくちゃならない部分であることもあるので……。自分に合った場所を選んでほしい。自分みたくに転々とするのも悪いことだとは思わないけど、やっぱり結婚して子供も二人もいて、お父さん転職してばなしっていうのは社会的にいいことじゃないので……。だから学生のうちにボランティアに行くっていうのは、いろんな未来の職場を見るチャンスだと思う。そういう意味では自分ももつとボランティアに行つておけばよかったと思うこともあります。

最後に、高齢者の方たちが居てくれるから仕事があるんだという感謝の気持ちをお忘れなないようにしましょう。



卒業生からの メッセージ

「たっぶく」を卒業してから

第13期生 高橋延良



第 13 期生の仲間達 (たっぶく祭)

私は平成二十年四月に入学し、当時五十三歳という年齢で、授業の憶えも悪く先行き不安なスタートでした。しかし、先生方、同級生、職員の方々ののおかげで楽しく充実した学生生活を送り、無事卒業することが出来ました。

さて、それでは卒業後の生活について少しお話ししたいと思います。卒業後は、湖西市にある「湖西白萩」に就職し、デイサービス部門に配属され現在に至っています。就職した当初は、とにかく憶えることが山のようにあり、先ずは利用者様の名前と顔を覚える事でした。しかし短期記憶不良の私には、とても大変で苦労しました。現在は百名を超える利用者様の顔と名前が頭に入っていますが、A D L等詳細な情報になると怪しい状態です。これがリスクとなり、ヒヤリハット発生の一因になっているのだと思います。ちなみに私はヒヤリハット件数ワースト上位ランク者でした。がここ一年くらいは圏外か・・・？ヒヤリハット件数が多い私が何故かリスクマネジメント委員会の一員として委員会に参加しています。ヒヤリハット報告書の内容を分析し、デイの職員と対策を検討して改善内容を委員会で報告するのです。要因は様々ですが、心にゆとりを持って介護を行うことが必要で、それには作業標準類の充実と繰り返し習熟していくことが大切だと考えています。何はともあれ利用者様に安心して過ごして頂けるように日々精進する毎日です。

さて、この様な介護の本筋を踏襲

しつつ、私が介護現場で目指すものは、「利用者様に心ゆくまで笑って楽しんで頂きたい」という事です。施設長は私に常々「デイでは利用者様にヘルスセンターに来て楽しんで頂けるような雰囲気を出してほしい。つまり職員はエンターティナーにならなきゃね・・・。」と言います。私も同感です。しかしどうやったらエンターティナーになれるのか？私のエンターティナー修行についてお話しします。

そもそも私は昔を振り返ることが好きです。特に昭和初期から三十年代までの歌や映画、世の中の事に興味があり、生活骨董品や蓄音機でレコードをかけ、聴いたり歌ったりするのが大好きです。こういう事を利用者様と共有すれば楽しく過ごしていただけるのではないかと考えました。妻は「昔の事を懐古してばかりでは後ろ向きな人生ですね・・・。」と否定的ですが、私はそのような言葉を振り払い、ひたすらエンターティナーを目指し精進するのです。手始めは、デイサービスの朝の会、帰りの会で蓄音機をかけ歌詞を白板に書いて利用者さんと一緒に唄を歌いました。「リンゴの唄」や「青山脈」、「丘を越えて」等馴染みの曲では8割を超すが大きな声で一



ポスター

生懸命歌われます。「この歌の題名と歌手はわかりますか？」と尋ねると「わからんね〜！だけど歌えるよ。楽しい！」と笑顔で言われます。たのしいもの・リズムは人の記憶に強く残るものだと改めて思いました。歌うと笑顔になり話題が広がります。こういう積み重ねをしながら、今では施設の行事や他の高齢者施設、地域の公民館行事にも年5回程度参加させて頂き、**国定忠治、李香蘭**等股旅姿、ドレス等で簡単な芝居と共に「蓄音機のノブ」として皆さんに楽しんで頂いています。ショーの最後には必ずお客様と短い会話や握手をして交流を深めています。「ありがとう、また来てね。」の声や



たつぷく祭での大学イモ作り

手紙を頂いたときはとても嬉しいです。
 最近利用者様の席で昔の歌と一緒に歌ったり話をしていた時、そばで他の職員が「高橋さんどこにいるのかしら?」と話し声。「あー!」
 「あつここにいた! すっかり溶け込んでる!」・・・「複雑な気持ち。
 ここ数年たつぷく祭の大学イモ作りのお手伝いに参加させて頂いています。地域の皆さん、職員の皆さん、同窓生と楽しく関わることができ、人と人との繋がりを感しました。



模擬店でも人気の大学イモ

たつぷくを卒業してもうすぐ3年になりますが、妻に「たつぷくに行ってから、髪の毛以外は若々しくなりましたね。」とよく言われます。そうです! 健診でも今は全て正常値です(腰痛以外は・・・)
 デイの仕事やたつぷくとの関わりで、人と人との触れ合いの楽しさ、難しさを知りとても良かったと感じています。
 これからも、まわりとの関わりを大切にして、趣味に仕事に大いに興味を持って過ごしていきたいと思えます。

同窓会総会を開催します

平成25年5月19日(日) 午前10時～

田原福祉専門学校 講堂にて

☆☆☆総会終了後に、さつまいもの植え付けを実施します。☆☆☆



自己教育力を養う

非常勤講師 竹本 興一

昔、むかし、七十年も昔の小学校時代の話、二人は、学習成績は中位で、普通の子であった。六年生で卒業して高等科へ進み、工作という科目でともに木工、竹細工を習った。

一人は工作が得意で、工夫を凝らし創作し、立派な作品を作りあげ、クラスの注目のまどであった。もう一人は飽きっぽくて、途中で投げだしてしまい、完成したことは全くないという対照的な二人の話です。

工作の得意な子は五男で、名古屋市内の会社へ就職した。もう一人の男の子は農家の長男で家業を継いだ。小学校を卒業して四十五年が過ぎ、還暦を迎えたことを記念して、クラス会が開催された。

工作の得意だった子は、名古屋市の大きな会社の工場長になった。家業を継いだ子はギャンブルにのめり込み、先祖伝来の田畑は全部売ってしまい、そのうえに借金までして、現在は行方不明ということであった。誰が言ったか定かではないが、工作の得意な人は出世をする。

人間は紛れもなく動物である、哲学者カントは、人間は教育されて人間になる。人間として教育されなければ、狼少女のように狼に育てられれば、狼になってしまう。

スイスの動物学者ポルトマンは、人間は生理的早産と言った。人間の子は一人では生きられない、手厚い保護と養育が必要である。

最初の教育者は母親で、そして家庭教育、社会教育、学校教育を受けて成長し、成人式を迎える。

義務教育の九年間の目的は、自己教育の基礎で、人間として生きる力をつける基礎、基本を学習する教育



福祉文化活動(園芸)
2年生の学生と教室にて

わからず』といわれるように、知識は読書によって得られることが多い。

アメリカの八歳から十八歳の青少年が、一日に何時間電子機器と一緒にいるかの調査によると、一日平均六時間三十分と報告されていた。

わが国においても、青少年の読書離れ、人の話を聞かない、聞こうとしない、俺は俺主義、自分主義だから関係ないという現象が起きている。

『少年老いやすく学なりがたし』、老眼鏡の必要のないうちに、自己教育力を高めておくことが幸福のもと。

入力ゼロなら出力ゼロです。



期間である。学校卒業後も自己教育ができる能力を与える期間である。ある本に、『バカ』の三態が紹介されていた。

(一)やればできるのにやらないバカ

(二)くだらないことに夢中になるバカ

(三)人の話が聞けないバカ
諸行無常、万物流転、常に物事は流れ変化する。常に学ばざれば知ることはできない。

自己教育が大切である。自己教育力は「興味」、「関心」、そして「意欲」の総合力だと思う。『学ばざれば道

学校だより

職員紹介



伊藤 政基

今年度、保険年金課から田原福祉専門
学校での勤務にな
り、早いものでもう
一年が経とうとしています。

この一年、医療保険関係から、介護関係の学校事務への異動ということで、窓口で障がい者の方や、高齢者の方々の対応をさせて頂いた経験から、福祉や介護の大変さは感じていましたが、実際に介護の現場に触れることで、その重要性を再認識する機会となりました。

超高齢化社会は、もうそこまで来ています。今は他人の世話にはならないと思っている方にも、老いは訪れます。元気な方でも何時、病気や事故で障がいを背負うことになるかわかりません。

そのような時、家族や周囲の方々の力は必要ですが、専門的な知識と技術を持った介護福祉士の存在は、施設内にとどまらず、日常生活の場面でも必要となってきます。

家族の絆や、他人への思いやりが

見つめ直される今こそ、介護のバイオニアとして人の支えになりたいと願う、たつぷくの学生の志には心強い思いがします。

私も、少しでも皆さんのお力添えになればと思っておりますので、よろしく願っています。

学校行事

公開講座

平成二十四年十一月十九日(月)

『新しい認知症のはなし』

講師：遠藤英俊氏

本年度の公開講座は、独立行政法人国立長寿医療研究センターの内科診療部長をお招きし、認知症についてわかりやすいお話をさせていただきました。



講演では、認知症の原因、種類、症状を知り、理解することの大切さや認知症の悪化を防ぐためのいろいろな方法について御紹介いただきました。早期発見や治療の大切さ、適切な療法について理解する機会となりました。

ユーモアを交えたお話の内容に参加者は興味深く聞くことができ有意義な時間を過ごせたことでしょうか。この会場に来た人は認知症になるのが5年遅れたなどと先生からのお言葉をいただき、来場者一同がすっかり引き込まれていました。

学生寮

クリスマス会

平成24年12月20日(木)、学生寮では、自治会主催のクリスマス会が開催されました。役員のみんなで企画し、会場の飾りつけも頑張りました。



会長さん自ら、サンタクロースに変身。みんなにクリスマスプレゼントを配りました。素敵なサプライズ演出は大成功。可愛いサンタさんからのプレゼントに、みんな大喜びでした。

実家を離れて寮で過ごす学生達にとつて、楽しい催しものとなりました。地域が違い、風習も違う学生達が皆で集まり、美味しいケーキやローストチキンを食べ・・・様々におしゃべりをして過ごしました。お赤飯を炊いてくれた管理人さんにも感謝です。

迎える新しい年も、みんなで楽しく過ごせますように・・・。



たつぷく ティールーム



今回は、在校生と卒業生で、これから社会に出ていく心配事などについて、話をしました。

④— これからの心配ごとってない？

⑤— 勤めて、体力的に、変則勤務とかあると思うし、辛くなる時期はありますか？

⑥— 施設の種別によっても違うと思うけど、私は知的障害者の施設勤務なので、老人とはまた違って、同性介護。夜勤は男性一人体制、女性一人体制。一人だと仮眠も充分に取れなかったり、勤務時間も施設によって違うと思う。

⑦— 病院は、看護師さんもドクタもいるから安心。施設だと何かあると不安になるよね。

⑧— 利用者さんがどんな状態になると救急車を呼ぶのか？その時の夜勤者の判断が重要。体力的にはそんなに心配しなくても大丈夫だと思う。

⑨— 今、実習から帰ってきたばかりで体験してきて不安もある。

⑩— 実習での夜勤はどうだった？

⑪— 特養に行ったが、パット交換をした程度。時間ばかり気になり、睡眠もうまく取れなかった。

⑫— それを経験したから心配になった？でも慣れたら大丈夫。

⑬— 知的、老人と施設によって全然違う。生活の場なのか、病気を治す場なのかによってやる事が変わってくる。生活の場であれば、夜は

パジャマに着替えるし、病院は一日中パジャマで着替えもない。服の着せ方もこつさえつかめばいいが、もたもたしてしまう。おむつの当て方もうまく当てられないと朝が大変。いろんなことが不安だと思うし、夜勤は怖いと思う、不安だよ。急変したら・・・。

⑭— 職場の人間関係も心配。怖い人はいないかな、とか。

⑮— 質の悪い人達も、いるかもしれない。残念だと感じたなら、道を間違えたら二〇年後の自分の姿だと思つて、そうならないようにね。

⑯— 結局組織でやる仕事だから、誰に相談すればいいのか、見極める目も必要。同期の子がいればお互いに話もできるけど、同期がいなければ、相談できる相手を探すことが大事。

⑰— 自分に合っている分野であるかも心配。訪問介護実習をした時は、時間が限られていて、慌しくて自分には合っていないと感じた。結婚して子供ができて、あいている時間を使つてなら良いかもしれないけど、フルタイムの勤務は考えられなかった。

⑱— ヘルパーは、全く考えなかった。選択肢としてなかったかな。

⑲— ヘルパーは、いろいろなケースがあり、社会経験がないと難しい場合もある。けど、年代が離れているとかえつて教えてくれて良い場合もある。何もわからない子に、お年寄り「教えてあげるからいいよ。」と接してくれる。若さの特権。料理も上手な人が行つていいというわけではない。私は料理上手と言つてつ

くる人の方が苦戦する場合もある。自己主張して相手の意見を聞かずにやってしまったりするからね。

⑳— 二年間学校で習つて、もう少しこの部分をやりたかったと思う部分はない？介護技術面とか？

㉑— 学校でやるのは一通りの流れ、基本。実際にボランティアでいくと勉強になる。コミュニケーションのとおり方。昔はボランティアに行くように指導され、その時は大変だったけど、いろんな施設に行つて、この施設いいなとか、この人のやり方がいいな、とか学ぶことができた。

㉒— 学生の時期には、思い切り遊びたいの思もあるよね。

㉓— 遊ぶためには、アルバイト収入も必要だったから忙しかった、時間を有効に活用して、やる時はやつて遊ぶときは遊ぶ、メリハリが必要。

㉔— ボランティアを活用するのはとても良いと思う。施設に行くときも雰囲気もわかる。

㉕— 四年目の先輩、仕事はきつくなりまししたか？

㉖— 仕事は慣れれば大丈夫。ケアプランは先輩が作成するが、意見を言わなくてはいけない。三年経つ

2012.12.6 開催



と、今までは予測できなかったこととか、特徴がある人のこととか、新人で入った時には見えないことも、見えるようになってくる。

㉗— そうならないといけないし、そのスピードも早く求められるのが介護職。新人とベテランで職場が構成されているんだよね。女性は結婚すると辞めて、三〇代後半に再就職するというケースが多い。結婚、出産で仕事を続けられない状況になる。介護の現場では、ひとり仕事ができな

いと、他の人に負担がかかつてしまふから難しい。本人の問題もあるけど、五年後の自分のビジョンが必要だし、大切なこと。介護福祉士だけではなく、他の資格も必要な時代。

㉘— 経験を積んで、『たつぷくの子はちよつと違うね』と思われたがこういう学校出て、それを見た学生がこういふ学校に入りたいたいと思われようになつてもいい。

㉙— 同窓会の芋ほりなどにも参加してね。

㉚— 日程を早く知つて、休みを取つて参加したいです。

㉛— いろんな行事に、卒業生が一人でも多く来て欲しい。

- オナー 松原宣子
- 卒業生 西野優子 渡邊恵里 氏原 匠 岡 達也 伊奈見和子 近藤奈見 中神祥次 北村友香 頓宮 舞
- 在校生